



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学附属図書館かわらばん No.2

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京学芸大学附属図書館 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/152388

2019～2020年度 学芸大図書館増築工事について

東京学芸大学では、2019年度末から2020年度にかけて、図書館・教職大学院棟の増築工事を実施しております。
利用者みなさまにはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

●工事の概要

- ・東側の空き地部分に図書館／教職大学院棟を増築します。
- ・増築部分は図書館(地下1階～2階)と教職大学院棟(3階～4階)の合同棟となります。
- ・1Fのラーニングcommonsを拡張します。
- ・2Fに参考図書等を移設し、資料を2Fにまとめます。
- ・地下1Fに貴重書庫を新設し、電動集密書架も拡張します。

●工事期間

おおむね、2020年1月～12月にかけてを予定しております。

●サービスの制限・変更について

- ・貴重書、准貴重書利用の一部制限
- ・グループ学習室の利用停止
- ・書庫教科書の一部移動
- ・関連工事に伴う騒音の発生

2019～2020年度
学芸大図書館増築工事関係情報

http://library.u-gakugei.ac.jp/notice/20190000_construction.html



関連情報の詳細は
附属図書館ホームページ内の
特設ページ(左のQRコード参照)で
逐次お知らせさせていただきます。

目次

1～3

図書館増築工事
コンセプト
増築計画／増築全体像

5

古本募金購入図書
附属学校の図書館紹介
附属小金井中学校

4

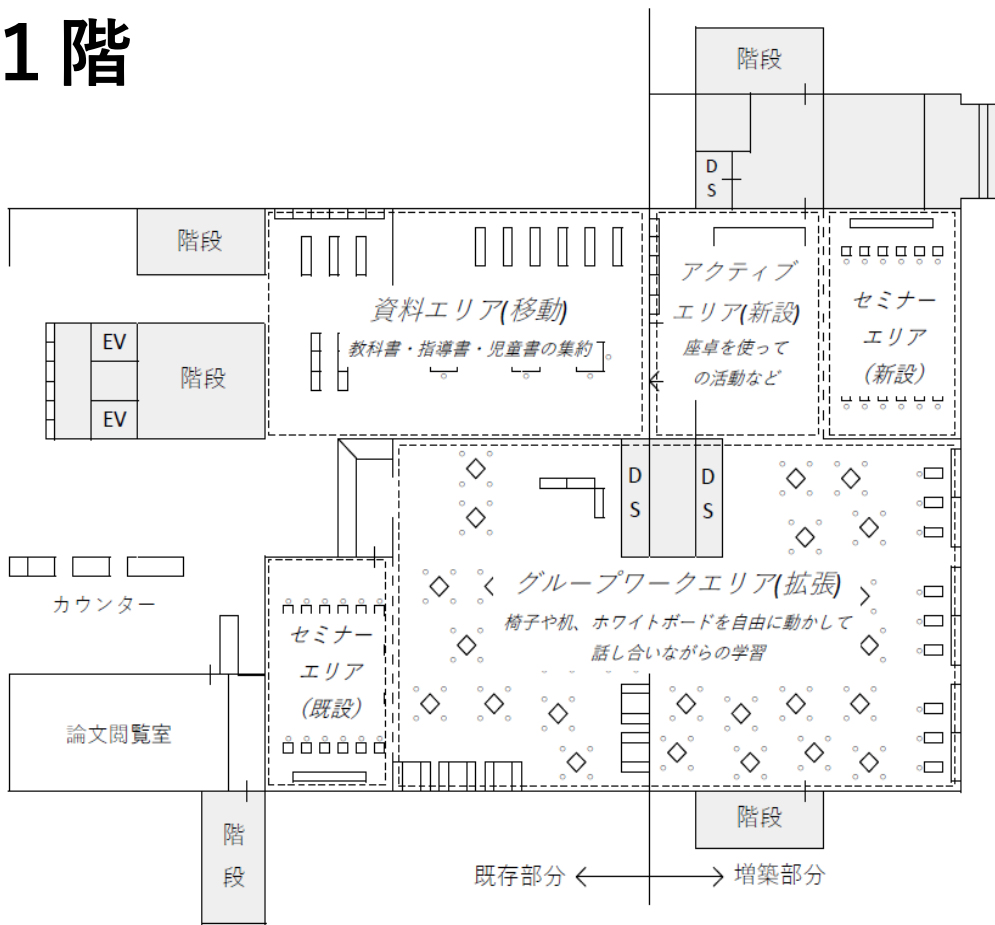
イベント開催報告
学びの多様性とアクセシビリティ
海外派遣報告会
PechaKucha from 3 Books
美術科卒業制作展

6

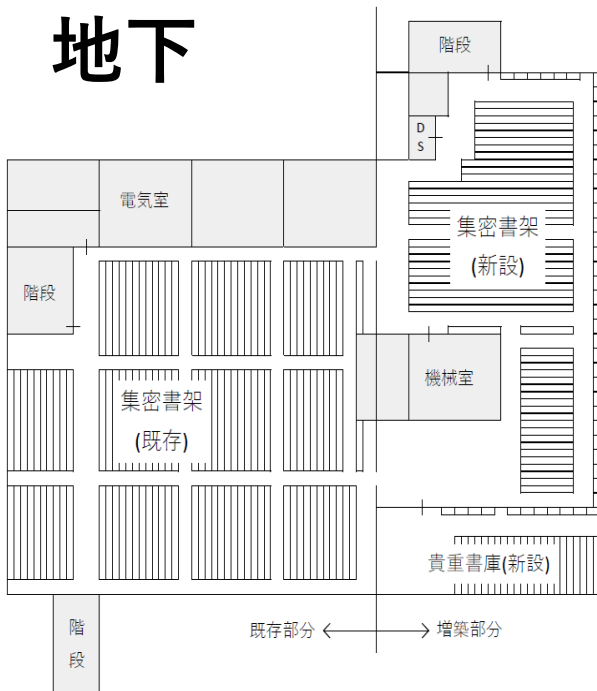
先生の一冊
渡辺 貴裕先生
note cafe 設立の理念



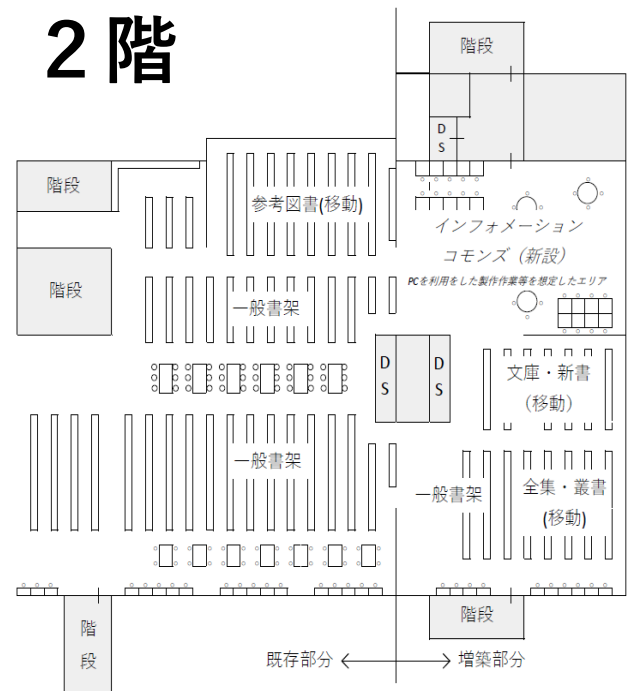
1階

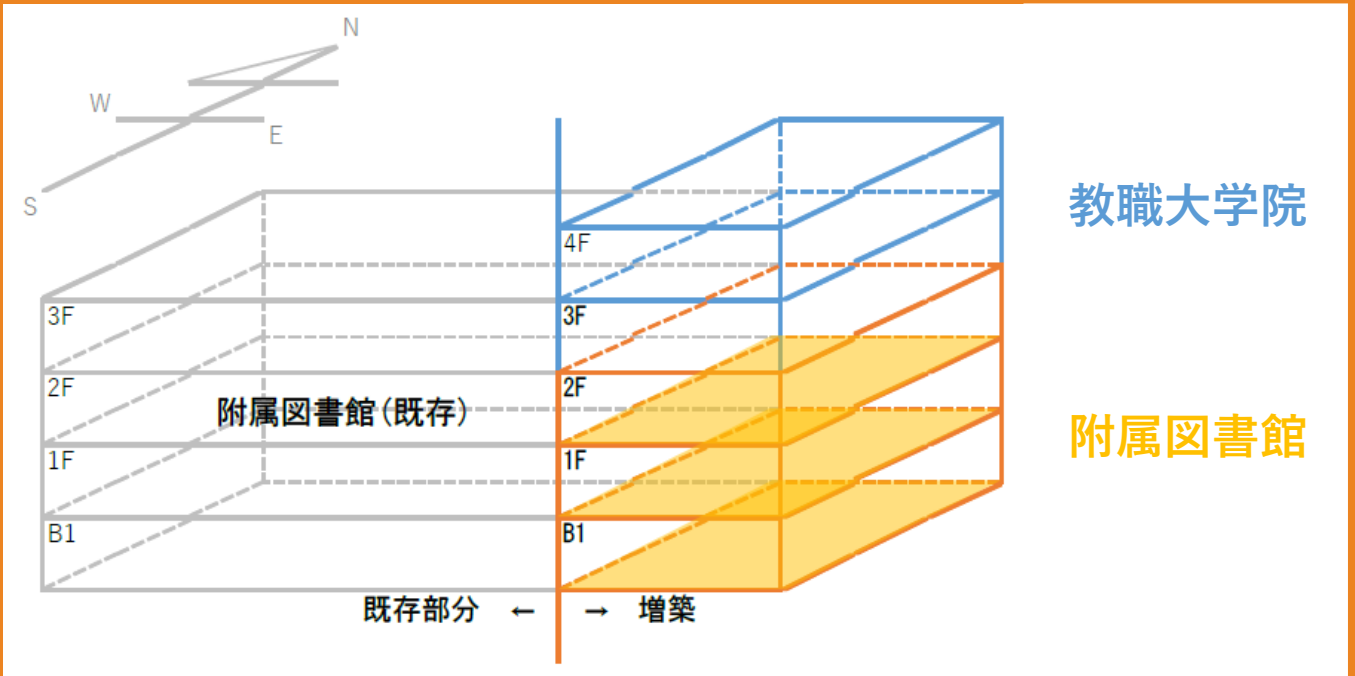


地下



2階





① Terakoya☆commons構想

Terakoya☆commons構想で示された「教え合い、学び合う空間」を実現します。書物に集約された人類の「知の営み」が蓄積される特殊な空間＝「知識の収蔵庫」という機能だけでなく、膨大な知識から情報を共有し利用する「開かれた知の創造・発信拠点」として、紙とデジタルの資料を提供し、人々が集うラーニングcommonsを備えた図書館を構想しています。

② 開かれた知の創造・発信拠点

ラーニングcommonsでは、教え合い、学び合う空間の実現のために、「出会う、深める、創る、伝える」という4つの学びの活動を支援します。

1階の増築部分、既存部分、2階の新築部分に学びの活動拠点を設けます。

- ・グループワークエリアの拡張
- ・セミナーエリアの展開
- ・アクティブエリアの新設
- ・資料エリアの集約
- ・グローバルcommonsの再生
- ・インフォメーションエリアの新設

2020年1月～図書館増築のコンセプト

TERAKOYA☆commons構想「教えあい学びあう」

増築地下1階	貴重書庫の整備、電動集密書庫の拡張
増築1階	ラーニングcommonsの拡張
増築2階	閲覧室の拡張・インフォメーションエリアの整備
増築3～4階	教職大学院アクティブラーニングスペースの整備
既存3階	事務室の再編

③ 知の宝庫・知の営みの集積拠点

紙の資料の収集保存に加えて、既存のデジタルコレクションの提供や機関リポジトリによる研究成果の保存・公開も含めて、図書館の知の集積地としての機能を強化します。

地下1階増築部分と既存部分、および、1階2階3階の既存書架の再配置を行います。

- ・貴重書庫の完備
- ・教科書の利便性の向上



学びの多様性とアクセシビリティ

本学附属図書館は、東京大学PHED・AccessReading、本学障がい学生支援室との共催により、「障害のある子どもから大人まで、先生・支援者に知ってほしい『学びの多様性とアクセシビリティ』」を、2019年11月28日（木）に開催しました。

第1部「学習・生活をアシストする支援技術体験」では東京大学の森脇愛子先生より多種多様な学習・生活の支援機器を解説いただき、第2部「教科書のアクセシビリティを考えよう」では東京大学の風早史子先生を講師に教科書等の電子データを用いた学び方の体験ワークショップを行いました。



PechaKucha from 3 Books



2019年12月23日（月）と2020年1月10日（金）に、**PechaKucha from 3 Books**を実施しました。このイベントは、EXPLAYGROUND内のラボ、Möbius Open Libraryの主催により実現しました。本学附属図書館の蔵書をランダムに3つ選び、その3冊に共通する知を発見し、PechaKucha形式（20枚のスライド×20秒）で発見した新しい文脈を発表するという一味違った読書の体験ができます。今回、12月23日には読む本を選び、1月10日には発表を行いました。図書館職員のほかに、教員、EXPLAYGROUNDの方が参加し、さまざまな視点の発表を聞くことができました。この取り組みは続いており、4月以降にも発表がある予定です。見学自由ですので、興味のある方はぜひお越しください。



海外派遣報告会

2019年度国立大学図書館協会海外派遣事業でポーランドを視察した瀬川結美さん（東京学芸大学附属図書館）と2018年度の同事業でオランダを視察した尾城友視さん（一橋大学附属図書館）の海外派遣報告会を12月5日（木）に図書館ラーニングコモンズにて実施しました。

瀬川さんの報告は、海外で日本文化を研究している研究者・学生からみた日本のデジタルアーカイブの課題点を明らかにするものでした。尾城さんは、オランダではオープンアクセス支援として、研究成果の機関リポジトリへの登録だけではなく、OA出版についても大学図書館が積極的に関与していることを紹介されました。

研修会には東京地区の近隣大学の図書館からの参加者もあり、海外の情報を取り入れつつ、サービス向上に取り組んでいる各大学の図書館職員にとって、良い交流の機会となりました。



美術科卒業制作展

令和2年1月30日（木）から2月5日（水）まで、当館新着図書コーナーにおいて、本学A類美術科池田晴介さんによる**卒業制作展「暫定(ざんてい)の集合(しゅうごう)」**を実施しました。池田さんは図書館を「多様な領域が集約された場所」「言葉」を扱う場所」と考え、自作の詩を核としたインスタレーションによって、多様な領域を横断する美術のあり方を表現されました。

会期中は新着図書も展示の一部となり、いつもとは異なる形で皆さんにお届けしました。日々多くの方が展示に足をとめ、熱心に棚に向き合う姿が見られました。また、作品を介した交流も活発に行われ、池田さんによるギャラリートークも開催いただき、盛況のうちに会期を終えました。



古本募金購入図書を決定

古本募金の予算で購入する図書について、2019年12月27日（水）まで、学生の皆さんからのリクエストを募集しました。

その後、頂いたリクエストを選書ワーキンググループ内で検討し、今年度は右記の図書を購入することにいたしました。

今回古本募金で購入した図書につきましては、購入した図書のリストの公開と、図書館内で展示を予定しております。

また、今回は残念ながら購入に至らなかったリクエストにつきましても、今後の選書の参考とさせていただきます。

古本募金へご寄附くださった皆さま、リクエストをしてくださった学生の皆さん、ありがとうございました。



- 1 書名が挙げられていた学術書等
特定の1冊に絞り込める情報が書いてあり、なおかつ入手可能だった図書
- 2 ジャンル等から、図書館職員が選定した図書
 - ・クトゥルー神話関連書籍（4冊）
 - ・大学4年間の〇〇〇が10時間でざっと学べるシリーズ（7冊）
 - ・見るだけノートシリーズ（8冊）
 - ・文様関連図書（2冊）
 - ・中野京子氏著書「怖い絵」シリーズ（6冊）
 - ・中村淳彦氏著書近刊（4冊）
 - ・「世界最高の文学100冊」海外古典や物語（21冊）

附属学校の図書館紹介

附属小金井中学校図書館



校舎の3階の良く陽の当たる金中図書館には、昼休みになると大勢の生徒が集まってきます。学年を問わず本の話で盛り上がる人たち、イラストを描く人、宿題をする人、図書委員会の作業をする人、今年度大学から提供されたタブレットを見ている人、そんなガヤガヤした中でも黙々と読書をする人……。多様な過ごし方ができることが金中図書館の一番の特色です。今年度は授業での利用も増え、図書館が生徒にとって身近な場所になっています。

附属学校図書館随一の狭さ（136㎡）でありながら、壁沿いに書架を並べ、真ん中を空けたすっきりした配置。歴代図書

委員たちの作った分類表示や展示物が館内を彩っています。各教科に対応する学問の本から気軽に読める雑学書、映像化原作や思わずほっこりする写真集、ラノベも文豪の本もとバラエティに富んだ蔵書構築を心がけています。

特筆すべきは大学構内という地の利を活かし、図書館情報学演習(前田稔ゼミ)の学生さんが毎週金曜日昼休みの開館を担当してくれること。朗読会や新聞、展示、そして英語テキストに絶妙なコメントをつけるなど大学生ならではのやり方で中学生と交流しています。

(附属小金井中学校図書館 井谷由紀)

先生の一冊

教職大学院 渡辺貴裕

森篤嗣『授業を変えるコトバとワザ』
くろしお出版、2013年



「では、ちょっとみんなで最初から読んでみましょうか」、
「ちゃんと本を持ってください」……。教師として子どもたちに話す際に、このように、あまり意味がない「ちょっと」や、漠然としてとらえどころのない「ちゃんと」を、つい使ってしまうてはいないだろうか。

本書で示される著者の調査によると、50の授業を文字化したデータにおいて、「ちょっと」は計576回、「ちゃんと」は計62回出現していたという。1回の授業で10回以上、教師は、「ちょっと」という言葉を使っているのだ。そのことは子どもにどんな影響を及ぼすだろうか。

本書では、このように教師の言葉や子どもたちとのやりとりのさまざまな実例が示され、その作用や意義が検討される。

「〇〇だったらやっぱりおかしくなるよね」における「やっぱり」、「〇〇さんがいいところに気がついてくれたので」における「てくれる」形……。著者は、教育学者であると共に日本語学者でもある。教室内コミュニケーションと日本語文法の両方への専門的知識を駆使して行われる著者の分析は興味深い。

本書は、よくあるような、「こういうときにはこんな言葉掛けをしましょう」を示す教師向けマニュアル本ではない。そうではなく、教師が、自分が発している言葉を振り返るための本だ。自分の言葉に敏感になること。子どもの言葉の力を育てるためにも、教師にはまずそれが求められる。

note cafe設立の理念



図書館カフェ運営協議会委員 藤井健志

東京学芸大学附属図書館カフェnote cafeは、2015年6月にオープンした。当時、図書館長とともに広報担当副学長を兼任していた私は、地域の方々にはしばしば「住民にとって大学はブラックボックスだ」と言われていた。あれだけ広いのにもかかわらず、そこにどのような人がいて、何をしているのかがまったくわからない、というのである。そこで私は、大学の人間と地域の人々との、日常的な交流の場を作る必要があると思い始めた。図書館改修を機に、図書館の1階にカフェを創ろうと考えたのは、このためである。

図書館は、研究と教育に関する情報が集積している場所である。だからこそ、その場所は今もっと地域の人々に開放されるべきだとも、私は考えていた。そして日ごろから様々な情報の扱いに習熟している図書館職員と、大学の教員および学生と、地域の人々が集まって、いろいろな議論ができる場になればと願っていたのである。

結果としてnote cafeは、多くの方の助力と支援によって開くことができ、多くの地域の人々が来てくださる場となった。特に子供連れのお母さんたちがよく利用してくれており、図書館前のウッドデッキは、小さな子どもたちが走り回る場となった。ただこれだけだと、まだ本格的な交流とは言えない。そこで、カフェにおいて「まちのカルチャーカフェ」を継続的に開催するようになった。大学の研究をおもしろい雑談のように、しかし深くものを考えるきっかけとなるように紹介する場にしたいと思ったのである。こちらはまだ、様々な模索をしている段階であるが、将来、大学と地域とを、知的に連結する場となることを願っている。

図書館
かわら
ばん

図書館かわらばん No.2

2020年3月19日 発行

東京学芸大学附属図書館

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

TEL:042-329-7223 FAX:042-329-7226

URL: <http://library.u-gakugei.ac.jp/>

東京学芸大学附属
図書館公式Twitter
では図書館に関わ
るお知らせについ
ていち早く発信し
ています。

www.twitter.com/gakugei_lib